

第7回（平成23年度第4回）静岡市行財政改革推進審議会 会議録

- 1 日 時 平成24年2月24日（金）午後3時30分～17時
- 2 場 所 静岡市役所静岡庁舎本館 第1委員会室
- 3 出席者 **【委員】**  
酒井公夫会長、小林みどり委員、朝志保子委員、石川春乃委員、井戸一美委員、大畑武重委員、兼高里佳委員、恒川隆生委員、中町昭彦委員、望月俊介委員
- 【行政】**  
小長谷経営管理局長  
（検討部会員）  
三宅行政管理部長、加藤経営企画部長、大場財政部長、赤堀人事課長、木村経営企画課長、湯本分権・広域政策課長、望月財政課長、（行政管理課長）  
（事務局）  
安本行政管理課長、和田参事兼統括主幹、鈴木副主幹、高橋主任主事
- 4 傍聴者 4人（うちマスコミ3社：静岡新聞、中日新聞、朝日新聞）
- 5 会議次第 次頁「次第」のとおり
- 6 会議内容 3頁以降に記載

第7回（平成23年度第4回）静岡市行財政改革推進審議会次第

と き 平成24年2月24日（金）

午後3時30分から

ところ 静岡庁舎 本館3階 第1委員会室

1 開 会

2 報 告

（1）静岡市行財政改革推進大綱実施計画（追加版）について（資料1）

（2）事務事業市民評価会議の評価結果を受けての見直し内容及び効果額について

（資料2）

3 閉 会

## 2 報 告

### (1) 静岡市行財政改革推進大綱実施計画（追加版）について（資料1）

#### 酒井会長

今回が最後の審議会となる。これまでを振り返ってみると、前半では、行財政改革の大綱を策定し、後半では、その進捗管理を行ってきた。この審議会では、行革の大枠について議論し、具体的な取組については、行政内部で計画し実施していくという、前市長の要望に沿ったかたちで、私たち自身も納得のいく形で進めてくることができたと感じている。

田辺市長がまちみがき戦略推進プランを策定したが、その中に、行革の追加の取組について提言している。本日は、追加版の実施計画が完成したということでその報告となる。

#### 《事務局から説明》

#### 酒井会長

前回の行革審において、追加版を作成するにあたっては、本来の行革の取組が落ちてしまわないよう、現行の計画を優先するようお願いしていたところだが、そのことが2ページに記載されている。行革審で要望したとおり、現行の実施計画とは別に新たに追加版が加わっており、今後はその両方を並行して管理していくことになっている。このことについて、ご意見ご質問等いかがか。

#### 中町委員

民間企業で勤務していた者から見ると、この追加版に違和感がある。具体的に言うと、3ページ、事務事業の見直し・統廃合で約28億円削減の目標を掲げているが、民間であればこのような場合、分母、つまりは事務事業の総費用を記載するのが普通である。総人件費の削減についても同じことが言える。民間では、総費用のうち削減目標最低20%などを掲げ、その目標に向かってどのように取組むのかを見える化させて切磋琢磨していく。立派な目標が書かれているが、削減額の総枠だけでは、行政側の心意気や姿勢が伝わってこない。総費用に対して、何%削減していくのかという数字が必要ではないか。

#### 酒井会長

行政の姿勢をどう示していくのか、それについていかがか。

#### 行政管理政部長

現行の計画に加えたかたちで、このように削減額を示させていただいたが、中町委員のご指摘のとおり、出来る限り行政側の姿勢が示せるような方法を考えていきたい。

#### 中町委員

今国会で、国家公務員給与の見直しの動きがある。それに対して地方はどう反応していくの

か、市民は非常に関心を抱いている。市としてどういう取組をしていくのか、一般市民に対する説明責任がある。自発的にその姿勢を示していくべきである。

酒井会長

考え方として、総費用のうち何%削減するという記載の方がわかりやすい。中町委員のご指摘のとおりであるので取組んでいきたい。

小林委員

3年間で59億円削減して、さらに80億円削減を最終目標として取組んでいくということだが、ただ削ればいいということでもないと思う。例えば、7ページの重度障害者生活訓練ホームの障害福祉サービス事務所への移行とあるが、これが収入増になっているのはどういうことか。また、6ページの母子家庭及び寡婦自立促進対策事業の廃止とあるが、廃止してしまっても良いのか。7ページに日本平動物園の駐車場料金の見直しとあるが、来客に影響がないか心配である。

事務局

重度障害者生活訓練ホームの障害福祉サービス事務所への移行は、従来は、市の一般財源と利用者からの使用料で実施してきた事業だが、サービス内容を見直して、国の補助を受けられるようにしたもので収入増になっている。母子家庭及び寡婦自立促進対策事業については、事業仕分けの対象事業で、他に代替サービスがあるので廃止とした。

日本平動物園の駐車場料金は、現在非常に安価に設定されており、ある程度適正な金額を支払ってもらうもので、利用者減につながるものではない。

小林委員

重度障害者についてサービスが低下するわけではないということか。

事務局

サービスは低下しない。

酒井会長

我々も分かったつもりでいる部分があるため、市民に分かりやすく説明できるようなものにしてもらいたい。

(2) 事務事業市民評価会議の評価結果を受けての見直し内容及び効果額について

(資料2)

酒井会長

市民評価会議の反映状況がまとまったということで報告をお願いします。

## 《事務局説明》

酒井会長

市民評価会議の結果と一部違う方向性になったものもあるが、結果を予算に反映していただいたということ。今回の報告に対するご意見ご質問と、評価会議自体の今後の在り方についても参考となる意見があれば願います。

兼高委員

評価会議に参加した者として、あの場の議論がどういう形になるのか興味があったが、予算に関係したかたちで結果が反映されたということで満足している。市の当局が評価会議の結果を受けて改めて対象となった事業について議論する機会となったという点で、同じような会議を今後も実施していくつもりなのか教えていただきたい。

事務局

来年度についても事業仕分けは継続していく。評価者や市民アンケートの意見にあった、対象事業の選定方法については現在検討中である。

望月委員

市民アンケートにもあったように、事業を抽出する過程を明らかにし、選定の段階から市民目線を取り入れて欲しい。今後どのような事業が対象となるのか非常に興味がある。市民の意見をぜひ取り入れてほしい。

酒井会長

事業の選定方法についてある程度イメージはあるのか。

事務局

事務事業の総点検という形でまず内部評価をして、その中から、市民の目線も取り入れて選定していきたいと考えている。市民目線は必ず入れていきたいと考えている。

石川委員

行政側が市民目線を取り入れて取組んでいくのとあわせて、市民側がまだ事業仕分けというものに慣れていないので、市民側の理解も深まるような行政側の配慮をお願いしたい。

事務局

委員の意見を踏まえて、市民アンケートやコーディネーターの意見を参考に、できるだけ多くの市民が参加できるような制度構築をしていきたいと考えている。

#### 酒井会長

制度構築については、難しい部分もあり時間がかかるかと思うが、ぜひ多くの市民が参加できるような仕組みにしていきたい。

#### 中町委員

我々は「改善」を、今かかっている費用を削減できるというマイナスの効果があるものとして評価した。対象事業の中には予算を増額したほうが良いというものもあったが、2班の中で、2-6の学校応援団推進事業は、際立って増額が大きい。会議の場では、事業の実施方法に問題がある、報酬を支払うのではなく、ボランティアで実施したらどうかという議論になっていた。だが、この結果を見ると、事業を拡大するから費用がかかる。ボランティアにして報酬を下げるといった話がされていたのに、報酬について見直しがされていないのではないか。改善というのは、予算を減額することであるのにこれでは違うのではないか。評価会議の取組として、最初に申し合わせた改善とは、コストを低くするということであつたはず。そのあたりが活きていない。

#### 財政部長

コーディネーターの謝金と事業内容を見直して、400万ほど減額している。報酬を減額した分、ボランティアに費用をかけるという要求がされた。学校応援団の事業自体は意味のある事業であるので、事業の拡大とあわせて、ボランティアの活動にかかる経費を増やしたため、表面的には事業費は増えているが、評価会議の結果を踏まえた内容としている。

#### 酒井会長

予算反映への詳細なプロセスについて、評価した当事者には説明がないのか。私たちは会議に出ていないので、情報は新聞や市HPで得ていたが、評価者も同じなのか。

#### 事務局

評価者のコメントやそれに対する対応なども記載した評価シートを評価者にはお渡ししている。

#### 中町委員

評価者の意見とそれへの行政側の対応が縦覧できるようになっているので、見える化されていることは事実。だが、改善の部分が各評価者が思っている内容にばらつきがあるので、市側が対応を示した後に、評価者とその対応について擦り合わせをする、次のステップが必要なのではないか。評価者と議論をする機会があるべきではないか。行政の一方的な押し付けではなくて、双方向の方がいいのではないか。制度の改善をし、参加意識を高めるというのであれば、次回からはそのような方法が良い。

酒井会長

評価会議の結果がそのまま反映されるわけではないだろうが、もっと評価者と市がコミュニケーションをとるほうがいい。

恒川委員

国が、ある制度についてパブリックコメントなどを実施する場合、国民がその制度について批判や意見をすると、国側がそれを全部読んで意見それぞれに回答をして終わりになる。この評価会議の場合にも、評価者の意見を聞いて関係課で検討して結果を示すという方法で、国と同じであり、この方法が相場だとは思う。だが、今後改善するのであれば、意見に対してより丁寧な回答をしていったらどうか。1回ではなく、2回、3回してもよいと思う。

兼高委員

3-7についてだが、社協の補助金が対象となった。この時も横領事件があった後で、大勢の人が見に来ていた。評価委員も非常に横領の事件を重く感じていて、市から税金を費用として支出しているのであるから、しっかり運営をチェックしてくださいという議論になった。その後新たな事件が発覚したが、予算は現行どおりの予算になっている。この点について、今後はどのような検討がされているのか。

酒井会長

評価のタイミングと今回の横領事件とタイムラグがあり難しいがどうか。

行政管理部長

予算は現年どおりであるが、当然市として再発防止に取り組んでいく。

酒井会長

社協の問題については、仕分け以前に市として当たり前のことをしていただきたい。

井戸委員

最後の段階になって、このような追加版が策定され混乱している。行革審では、行革の大枠を示した大綱をしっかりと作成して、それに各課が具体的計画を出してきたが、市民評価会議は最初に事業ありきで実施しており、それが今回追加版というかたちで作成されている。現行の計画に沿った形で事務局が作成しているが、内容がちぐはぐな部分がある。これまで行革は大綱がまずあって、それに計画を作ってきた。事業仕分けは最初に事業ありきで進んでいるためとまどう。次回もぎくしゃくするのではないか。

本来の行革の流れの中で、テーマを決めて、その取組みのひとつとして進めていければ良いが整理して進めてもらいたい。

## 事務局

事業の選定方法についても議論があり、どのような選定方法がいいのか今後十分に検討し、報告していきたい。

## 3 閉 会

静岡市行財政改革推進審議会の委員として参加した感想

### 朝日委員

追加版の実施計画を見ても、事務事業の見直しの金額は大きい。私たちもプロセスの見直しを行っているが、それと同じことだと思う。プロセスの見直しをさらに進めてもらいたい。より改善・改革が進めばと思う。なお一層、アイデアを駆使して進めてもらいたい。

細かいことだが、この会議で配布している資料とか、文房具とかは不要ではないか。こういった削減からはじめてもいいのでは。

### 石川委員

私が委員に申し込んだのは、静岡市の行革大綱が素晴らしいと感じ、その実践を見届けたいと思ったからである。コスト削減ばかりを掲げる自治体があるなかで行革の取組のメリハリを感じた。残念なのは、最終的には経費削減だけが示されてしまっていること。追加版があるのは数字的には素晴らしいが、行政内部の努力がもっと現れてもいいのではと感じた。結果の数字ばかりではなく、その背景を強く示していってもらいたい。

### 井戸委員

市の OB ということでやりにくい部分があったが、大綱も満足できる形でまとまった。残念だったのは、聖域がないとは言っているながら議会には触れることができなかったこと。議会についても同様のものさしで見ていくことが大事だと思う。静岡市の大綱は他市に示しても恥ずかしくないものだと思う。ぜひ平成 26 年までに目標を達成してもらいたい。

### 大畑委員

行政については素人だったが、参加させてもらって大変勉強になった。委員の皆さんの意見を聞かせていただいて非常に勉強になった。

### 望月委員

中小企業団体の立場で参加させてもらった。任期中、リーマンショックや東日本大震災など、社会情勢が大きく変わる中で、その影響は家庭にも行政にもあるのだということを経験させてもらった。市の発展には産業の振興が必要だと考えている。労働力人口が減っている中で、都市間の競争がさらに激しくなり、産業、特に中小企業の支援、民間活力の活用について一層発展させてもらいたい。努力をお願いします。今後も一市民として市の発展について考えていきたい。



## 中町委員

民間で経営者を経験した立場と、一市民と言う2つの立場で参加した。以前日経に、ジョージア州の住民10万人のサンディ・スプリングス市の職員が6人だという記事があったことを紹介したことがある。

静岡市も同じように論ずることはできないかもしれないが、当てはめれば、静岡市だと、60人～70人の職員で世界的にはやっているところがあるということ。市民の目線からすれば、そんな市があるなら、どこがどう違うのか検証してもらいたいという思いがある。

民間では全社員が3～5分単位でノートに自分のした仕事を書いて分析をすることがある。その結果、実働時間は10%以下、ほとんどの時間はむだ話をしているのだから2～3割の社員は削ってもいいという考えが出てくる。

市長が50%の給与削減を提言したが、それを受けて市の職員はどう反応すべきか議論したのか。まさに姿勢を示すというのはそういうこと。おそらく、市の職員のことを辛くもない仕事をして、高給をもらっていると思っている市民が多い。そういう人達に静岡市が良いと思ってもらうために努力をしてもらいたい。その姿勢が伝わってこなかったのが残念だった。

## 恒川委員

行革の対象は非常に広い。納税者からすれば、負担に見合ったサービスの提供を求めている。この行革審では、多面的な観点からあるべき行革の素案を考えてきた。

義務付け枠付けの法案が通り、国の出先機関が廃止されるなど、無駄のない行政をとっている側から仕事はどんどん増えていく。削る部分がなくなれば負担を求めるしかなくなる。流動的で先が見えない状況だが、今後静岡市の行革がどのように進んでいくか見ていきたい。担当課の皆さんからも今後とも勉強させてもらいたい。

## 兼高委員

市民目線に立ち、行革の難しい内容について、どういう感覚で受け取り、投げかけられるかという立場で取組んできた。改革というと非常に重いものだが、行革の大綱を作った方達と一緒に委員をすることができ光栄だった。評価会議などにも参加できて有難かった。

東日本大震災を見ていくと、市役所の職員というのは市民から命を委ねられる存在であり、市民にとって、自分のこれからを設計していくなかで非常に大切な存在であると感じた。柔軟に物事を考えていくことが行政には必要。常に頭をやわらかく、広い視野でものごとを見つめ、経験を積んでも、常に柔軟な対応をしてもらいたい。頼りになる市役所職員を生み出すことにもなる。市民もただ頼るのではなく、参加していく意志が大切。素晴らしい市民になったわけではないが、他の市民の方々にこういった経験を伝えながら、市の行政への理解の働きかけをしていきたいと感じている。濃密な仕事であった。委員として受け入れていただいて有難く感じている。

## 小林委員

立場の違う意見をたくさん聞くことができ非常に参考になった。委員の性別や年齢につい

でもっと広がるといいと思う。行政への対応には安定感を感じている。

酒井会長

前小嶋市長から委員の打診があった当初は気が進まなかったが、具体的な細かい取組は行政内部で決めていくので、大枠だけ示してもらいたいということでおもしろいと感じ受けることにした。

前半は事務事業という言葉さえ分からない中で、行政との距離を感じながら行革大綱を作成したが、委員皆さんの意見を採り入れて、まさに一字一句我々が作成した大綱となり満足している。行政側も基本的に委員の意見をすべて取り上げてくれた。後半は進捗管理で、数字を追いかけるばかりになり、方向性から離れてしまう部分もあったが、今後も道に迷ったらこの大綱にまずもどって、読み返し、方向性を確認してもらいたい。

署名 静岡市行財政改革推進審議会

会長 酒井公夫